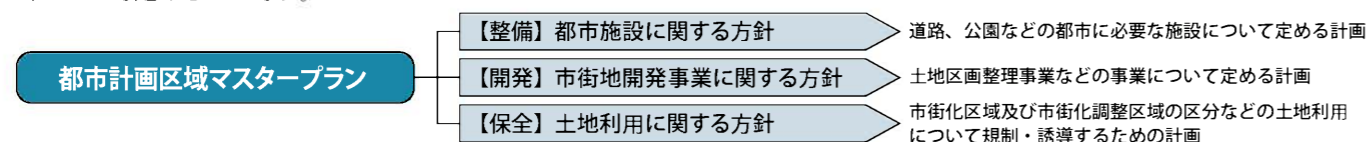


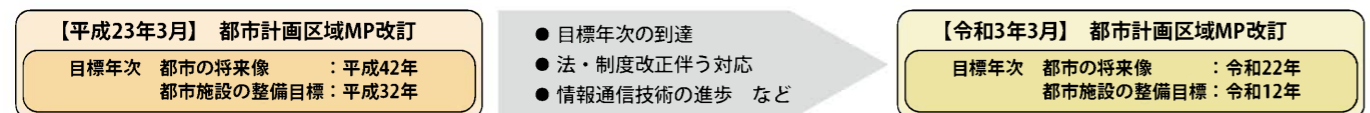
# 1 都市計画区域マスタープランの改訂

都市計画区域マスタープランとは、長期的な都市の将来像を明確にするため、都市計画区域における整備、開発及び保全の方針について定めるものです。

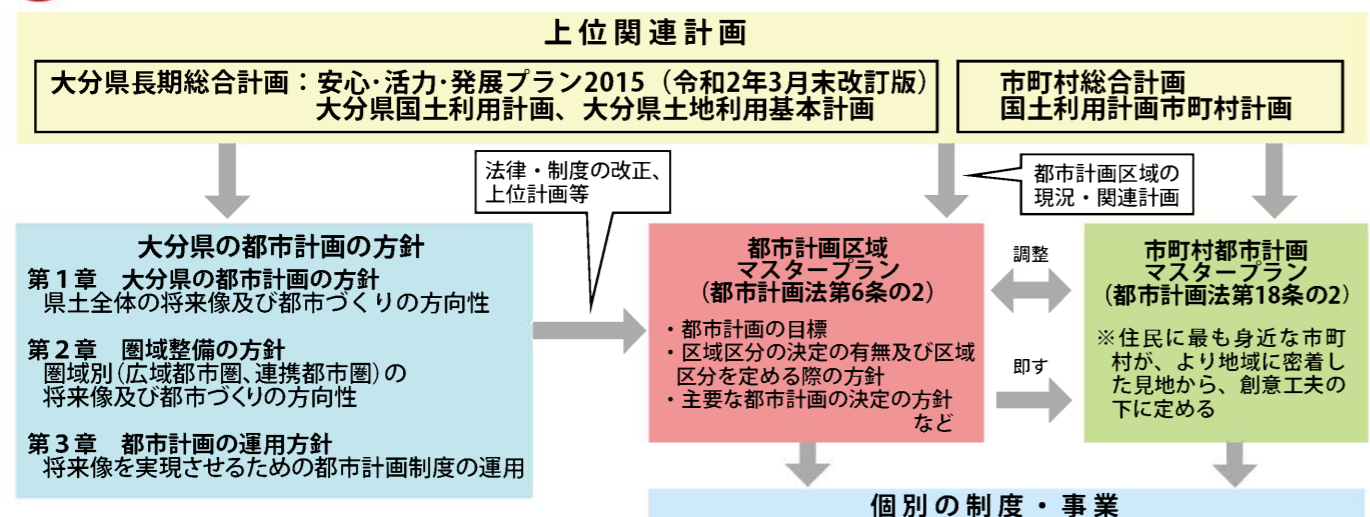


大分県では、平成16年3月に都市計画区域マスタープランを策定しましたが、都市施設の整備目標年次の到達、市町村合併等による変化を背景に、すべての都市計画区域マスタープランを見直し平成23年3月に改訂しました。その後、およそ10年後の目標年次に到達したことを受け、社会経済情勢の変化や新たな法・制度改正に伴って、令和3年3月に改訂する予定です。

今回の区域マスタープランは、令和2年を基準年として「都市の将来像」に関する目標年次を概ね20年後の令和22年、「都市施設の整備目標」等に関する目標年次は令和12年としています。



# 2 都市計画区域マスタープランの位置付けと役割



# 3 本県の目指すべき将来の都市像

## 基本方向1 都市機能の集約と連携による持続可能な都市づくり 【都市構造】

- ▶ 都市機能等を中心部や生活拠点に集約し、市街地の拡大を抑制するとともに、誰もが必要なサービスを身近に享受することができる都市構造の実現を図ります。
- ▶ 拠点間や拠点と居住地域間において、公共交通の確保・維持や新たな交通システムの導入等により、歩行者・自転車も安全で快適に移動できる都市づくりを目指します。
- ▶ 集約化を図るべき地域では土地利用の高度化などを図るとともに、集約化する地域の外側では公共サービスのあり方、農地や自然環境の再生を検討します。
- ▶ すでに市街地を形成している地域においては、官・民が保有する様々な既存ストックの総合的な有効活用を図り、より効果的・効率的な都市づくりを進めます。

## 基本方向2 地域の魅力が向上し、人や仕事であふれる都市づくり 【地方創生】

- ▶ 既存企業の事業拡大や新規成長産業分野の企業の進出を支援するため、企業ニーズに的確に対応できる立地環境の整備を促進します。
- ▶ 観光地間のネットワーク強化や二次交通の整備による受入体制の整備促進など、観光客をもてなす都市づくりを促進します。
- ▶ 地域の個性や固有の魅力の向上を図り、活力と魅力にあふれ、暮らす人にも訪れる人にも快適な都市づくりを進めます。
- ▶ 県や市町がそれぞれの役割分担のもとで連携・協調して、地域活力や地域間競争力の向上を目指した都市づくりを進めます。

## 基本方向3 安全で安心して暮らせる都市づくり 【安全安心】

- ▶ 土地利用のあり方の検討や、増大する災害に対応した諸機能の分散配置やバックアップの整備など、総合的な災害対策と都市防災機能の強化を図ります。
- ▶ 災害に関する様々な防災情報を整理するとともに、事前復興等の取組にも活用します。
- ▶ 都市基盤の整備やバリアフリー、ユニバーサルデザイン化などにより、すべてのひとが安心・安全に住める都市づくりを進めます。

## 基本方向4 歴史・文化資源の保全と美しい景観形成を図り、自然環境と共生する魅力ある都市づくり 【環境】

- ▶ 地域特有の歴史・文化資源等を保全するとともに、景観形成や都市空間等の創出を図り、美しい県土を次世代に継承する都市づくりを進めます。
- ▶ グリーンインフラなどの取組を進めるとともに、自然景観を活かした市街地を形成するなど、自然と共生した都市づくりを推進します。

## 基本方向5 私たちの地域は私たちがつくる地域主体の都市づくり 【地域主体】

- ▶ 多様な主体が協働を推進しながら、民間主体のエリアマネジメント等を活用し、地域が自ら運営・調整・管理できる都市づくりを目指します。

## 4 竹田都市計画区域マスタープランの概要

### 都市づくりの基本理念

中九州横断道路の延伸を契機に、存在する多くの歴史的文化遺産を活用した観光機能のさらなる強化、阿蘇やくじゅうなどとの連携により、広域的な観光・レクリエーション拠点として中心的役割を果たす観光都市の形成を目指します。

### 基本方向1 都市機能の集約と連携による持続可能な都市づくり 【都市構造】

#### コンパクト・プラス・ネットワーク

- 豊後竹田駅周辺や国道57号沿いの商業エリアなどを含んだ竹田・豊岡地区及び玉来・松本地区を中心拠点とします。
- 持続可能な都市づくりに向けて、豊後竹田駅周辺等の中心拠点へ、行政、医療・介護、福祉、商業等の都市機能や居住の集約化を促し、郊外部への市街地の拡大を抑制することにより、コンパクト・プラス・ネットワークの実現を目指します。

#### 公共交通

- 豊後竹田駅では、異なる交通モードの結節点として、交通手段間の乗り継ぎの円滑化など、その機能強化を図り、公共交通機関の利用促進に努めます。また、バスについては、竹田地区・玉来地区の2拠点を中心とした路線への再編を検討します。
- 情報通信技術を活用した交通需要マネジメントなどの新たな公共交通システムの導入について、関係機関と連携して検討を進めます。



城下町地区

#### 道路

- 特に優先的に整備、事業化する道路は、2路線あります。(竹田玉来線、玉来吉田線)
- 代替路線が別途確保されるなど、必要性・優先性に乏しくなった都市計画道路については、適宜見直しを行います。

#### 土地利用

- 中心市街地では、土地利用の高度化や既存ストックの有効活用を図るとともに、公共施設や各種施設の中心部への集約及び立地促進に努めます。また、空き家などについて、他の用途への転用等を含めて、多様な活用を推進します。

### 基本方向2 地域の魅力が向上し、人や仕事であふれる都市づくり 【地方創生】

#### 観光振興・インバウンド対応

- 城下町地区では、江戸時代の面影を残す武家屋敷や寺社が建ち並ぶ城下町の町並み景観を保全するとともに、観光産業と連携のもと歴史的風致を活かして観光客の滞在時間の増加に向けた必要な機能の集積を図り、本都市計画区域の顔づくりを目指します。



夜市(下本町)

#### 企業誘致・産業振興

- 国道57号沿道及び国道442号沿道を産業機能集積拠点とし、工業地としての機能の集積と充実により、既存産業の支援や企業誘致を図るとともに、周辺地域の自然環境や生活環境の保全に努めます。
- 中九州横断道路による高速交通体系の整備を見据え、新たな企業の誘致を図ります。

#### 市街地開発

- 都市基盤が不十分で未利用地が介在している地区については、都市計画制度の活用などにより望ましい土地利用方を検討します。

### 基本方向3 安全で安心して暮らせる都市づくり 【安全安心】

#### 防災

- 玉来川、濁淵川は、特に優先的に整備を進めます。
- 緊急輸送道路など災害時にその機能の維持が必要な道路については、防災対策を推進します。
- 可能な限り災害リスクの低い区域へ居住や都市機能を誘導し、災害リスクの高い区域については土地利用規制等を検討するなど、適切な土地利用を図りつつ都市の防災性向上に努めます。



玉来川周辺

#### バリアフリー・ユニバーサルデザイン

- 「竹田らしい」城下町の機能をまちづくりに活かしていくため、無電柱化による歩行空間の確保や案内板の整備、バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した歩行空間等の整備など、歩行者にやさしい道づくりを検討します。

### 基本方向4 歴史・文化資源の保全と美しい景観形成を図り、自然環境と共生する魅力ある都市づくり 【環境】

#### 景観・自然環境

- 城下町の景観が残る城下町地区は、景観条例に基づく景観形成重点地区の指定とともに、高度地区などの制度を活用し、景観形成を図ります。
- 中心市街地西側の寺町の社寺林は、特別緑地保全地区への指定を検討します。また、本都市計画区域を取り囲む丘陵地については、風致地区などの指定を検討し、適切な伐採等による良好な樹林地の維持存続に努めます。



岡城石垣

#### 公園

- 適切な維持・管理や機能改善・長寿命化を図るとともに、市街地に必要な公園・緑地は、新たに都市計画公園などとして指定を検討し、その維持・確保を図ります。
- 公募設置管理制度(Park-PFI)の活用等により、民間の資金、技術、経験などを活かした魅力ある公園づくりを検討します。

#### 農地

- 吉田地区、飛田川地区のまとまった優良な農地の保全に努めます。
- 市街地内の農地は、景観・環境・交流などの機能を持つ身近にふれることができる緑地として、必要に応じて保全に努めます。

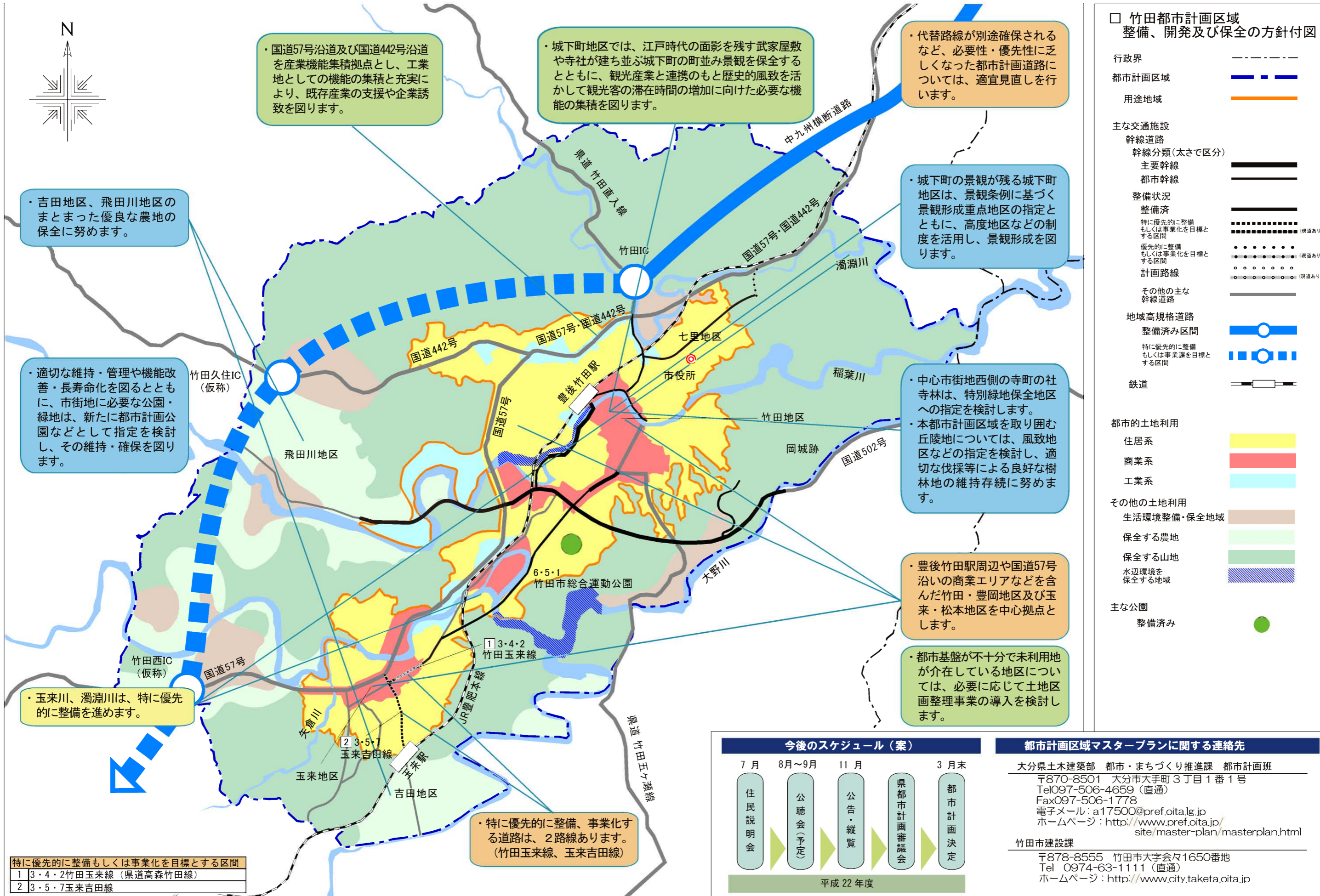
### 基本方向5 私たちの地域は私たちがつくる地域主体の都市づくり 【地域主体】

#### 官民連携のまちづくり

- 計画内容とその進捗状況については、県・市・住民による「都市(まち)づくり懇談会」などにおいて定期的に意見交換を行い、継続的に計画内容を改善していきます。
- 行政主体のまちづくりからの転換を図り、様々な主体が主役となり、自分達の地域の資源を活用し、地域の価値を高めるエリアマネジメントを推進します。



ワーキング部会



500m 0 500 1000 1500 ※道路は原則として幅員8m以上の幹線道路で、表中の( )内は道路法上の路線名を標示している。公園は原則として総合公園、運動公園など都市基幹公園を標示している。